

第1回安曇野市水道事業運営審議会 会議概要

- 1 審議会名.....平成24年度 第1回水道事業運営審議会
- 2 日 時.....平成24年5月17日 午後3時から午後4時まで
- 3 会 場.....安曇野市豊科総合支所コミュニティ消防センター
- 4 出席者.....矢ヶ崎会長、務基副会長、等々力委員、市川委員、藤原委員、磯野委員、窪田委員、市川委員、加々美委員
- 5 市側出席者.....中野部長、井口課長、水谷係長、奥村係長
- 6 公開・非公開の別.....公 開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成24年5月22日

協 議 事 項 等

(開会) 午後3時

- ・開会 (井口課長)
- ・あいさつ (中野部長)
- ・あいさつ (矢ヶ崎会長)

議事① 三郷地域水源転換の全体計画について
(議事①資料に基づき事務局で説明)

委 員

現在使用されている施設の解体や用地についてはどうするのか。

事務局

基本設計の中でも既存施設をいくつか利用して建設費を抑えるという検討をしてきた。南小倉区は配水池に近いので水圧が低く、南小倉地区では、給水人口の半分程度が水圧が低い。現在使用している浄水場が最終的に停止となるので、施設を解体して、現在のろ過地に小倉配水池を築造したい。小倉配水池は、7～8メートルの高さになるので、現状より水圧が高くなる。

委 員

三郷地域水源転換全体計画で、「新設受水槽中継ポンプ場～既設野沢配水池」という同じ項目が二つある理由はどういうことか。

事務局

管径が変わり、単価も異なるため別々に記載してある。

委 員

前回の水道事業運営審議会の折に、4案の水源転換工事の方法が提案されて、確か20億円に満たない費用だったと思うが、経済性にも優れているため賛成した。今回提示案の工事費用額が高いのはどういうことか。

事務局

前回の時は室山に配水池を建設するとか、既存配水池を使うとか、という中から既存配水

池を使うという形で統一されたもので工事費用を算定したが、現実に計画として現在水圧の低いところを加圧するのか、あるいは自然圧で配水池を建設するのかというところが重要となった。4案以外の案にも該当する内容で約2億円程度は増加するという内容。4案というのは水源を深井戸にするのか豊科から送水するのかということで、この加圧をするか否かというのは別の話。地元の利水運営委員会でも消火栓の水圧が低いため河川から水をポンプアップして消火をしているということで、水圧を上げてほしいという要望があった。

事務局

4案の中にはPCタンク1,000トンを建設するという内容は当初はなかった。浄水場は三郷の中では一番標高が高いところにあるため、その場所にPCタンク、配水池があれば一番理想となる。この機会に新しくPCタンクを建設しないと後年になってからでは建設することが難しいため、PCタンク1基を跡地に設置するよう変更した。

副会長

この水源転換工事をしている最中は、断水になるのか。

事務局

現在、室町に送水管で送水されているが、工事初期はその既設管を利用して、工事費を下げるということを考えた。しかしその管は耐震性の無い管であったため、工期中はその管を使い続けて最後に切り替える。

委員

安曇野市の真下には活断層があるが、水道施設の真下に活断層はあるのか。

事務局

大きな活断層としては該当は無いが、細部は調査が行き届いていない。

会長挨拶の後、閉会。

会議終了 午後4時